

参加された皆さまの発言を尊重して、修正せず当日発言された内容を掲載することを基本にしていますが、下記のとおり掲載にあたって配慮を行っています。

- ・ 発言者については氏名を記載せず、委員については委員と、NUMO 職員については NUMO と、ファシリテーターについてはファシリテーターと、テーブルファシリテーターについてはテーブルファシリテーターと記載しています。
- ・ 個人名の特定につながり得る発言等、文書として公開するにあたって配慮が必要な部分については、一部加工しています（「〇〇」と記載）。
ただし、NUMO 職員、ファシリテーター、テーブルファシリテーターの氏名が、発言中にある場合は、そのまま記載しています。
- ・ 記載することで発言の内容がわかりやすくなり、かつ発言中の議論に影響を与えないものについては、一部加工しています。

神恵内村 対話の場（第3回）会議録

1. 日 時：2021年8月5日（木）午後6時30分から午後8時34分

2. 場 所：神恵内村漁村センター

3. 会議録：

（1）開会

○NUMO

それでは、お時間になりましたので始めさせていただきます。皆さま、本日はお忙しい中、また夜分遅くに神恵内村対話の場にご参加いただきまして誠にありがとうございます。私は司会を務めさせていただきます対話の場事務局 NUMO 地域交流部の古川です。どうぞよろしくお願い申し上げます。それでは、事務連絡は先ほど済ませていますので、早速ファシリテーターの大浦様、佐野様のほうにお渡ししたいと思います。大浦さん、佐野さん、お願いします。

○ファシリテーター

どうも、こんばんは。よろしくお願いいたします。今日の進行を、また今日も担当させていただきます。私、大浦です。

○ファシリテーター

佐野です。

○ファシリテーター

よろしくお願いいたします。2時間お付き合いください。よろしくお願いいたします。では、対話の場を始めるにあたって、ちょっとワンパターンですけども、いつもの約束を確認させてい

ただきたいと思います。

今日もご参加いただきありがとうございます。今日のメンバーを最初に紹介しましょう。今日来てくれる方を確認します。事務局というのは NUMO の方。NUMO の方、手を挙げてください。この方々が NUMO です。はい、どうもありがとうございます。役場から来てくださってる方。裏方の方もあります。役場の方がいらっしゃいます。あと経済産業省から来てくださってる方、お二方来てくださっております。よろしくお願ひします。ありがとうございます。道庁さんから来て下さってる方。よろしくお願ひいたします。あちら側に座って下さってるスタッフ。あと前に皆さん方に予告した通り、今日はこういう形でテーブルでお話をしますので、テーブルの世話役、テーブルファシリテーター、世話役ですね。世話役の人がいます。世話役の人ちょっと手を挙げてください。本当は自己紹介させたいんですけども、自己紹介すると時間が食うので、この後テーブルワークになった時にそれぞれのテーブルでやってください。よろしくお願ひします。皆さん、優しくしてあげてください。よろしくお願ひいたします。というスタッフなんだけど、中継を手伝ってくれているのはどこの会社？何ていう会社でしたっけ？オー・プランという、中継を手伝ってくれている会社の方もいらっしゃいます。大事なスタッフなのでご紹介だけしておきます。よろしくお願ひします。というメンバーでやってます。

今日のこれからの流れです。いつものお話。みんな見えてる？僕、邪魔？大丈夫？今日の流れですけども、私たちの立ち位置、いつものお話ですね。それと対話の場の約束事の確認をして、前回の振り返りをして、今回の問いかけをする。いつも同じようなこと書いてあるけど、やります。ファシリテーターの立ち位置。僕たちはここになぜ立っているのかというところで、僕たちのスタンスですが、これは僕と佐野さんの話で今までずっと話をしていましたが、このルールは、今日から参加してくれた皆さん方のお世話役、テーブルファシリテーターも同じルールが適用されて、同じ気持ちで参加してくれてます。そうだね。大丈夫だね。私たちは市民が科学技術を良く知り正しく恐れる活動に関わります。今日新しいメンバー入っているから読むから。私たちは科学技術問題を扱う仲介者として、ようはお手伝いする係として、企画と進行のお世話をします。お世話係です、とお話した通りです。それと、あらかじめ答えが決まっている場には関わりません。皆さん方が最初から全員で誘致と決まったとなったら、もう来ないということです。どっちか分からない人もいるかもしれないという場だから皆さん方のお手伝いをします。私たちは何らかの答えを誘導するような行為には関わりません。例えば、NUMO からお金もらってるから、NUMO に言われて、「いいからみんなのこと何とかして懐柔してイエスって言わせろ」とかね、そういうこと言われるぐらいであれば僕たちは最初から受けないというのが私たち全員の信条です。その信条のもとに集まっています。私たちは一体誰のためにここにいるのかということも、これもとても大事なお話でいつもしています。もちろん今日ここに来てくださっている、ここに座ってくださっている、今日は何人？今日は 16 人の方、この皆さん方のため。それともう一つ、神恵内に心を寄せている皆さんのご家族もいらっしゃいます。あるいは、後ろに報道のカメラも入っていて、カメラの向こう側にいる方々も、今日この場のことを「神恵内はどうなるんだ」と心配してくれている方のことも無視することはできない。それと、皆さん方の子々孫々の方々、10 万年とかの話をしてるんですね。その人たちに対してどんな責任があるのかということも考え

ながら場はやっていかなきゃならないんだろなというふうに思ってこの場にいます。ということが、いま僕たちがここにいる理由、僕たちがやろうとしていること、僕たちの立ち位置です。そのことについてお約束をして始めたいと思います。みんないいね。僕の仲間たち大丈夫だね。対話の場の約束事です。これは皆さん方で決めて、最初の時に決めた約束事でした。できるだけ皆さん方に幅広い、いろんな意見を出していただきたくて、ここの中で対立だとか喧嘩だとか起きることはできるだけ避けていきたいと思っております。そのために対話の場の約束事としては、お互いのお話に耳を傾けましょう、一人の話が極端に長くなったら「すみません、ちょっとこのへんでまとめていただけませんか」とか「次の人に順番譲っていただけませんか」とお願いする場面が出てくるかもしれません。それと、人の話を否定するのはやめましょう。いろんな意見があってもいいので、違う意見を申し上げるのは構わないんですけど、「お前の言ってることはおかしい」という言い方はやめましょう。それと最後ですけども、ここで話された内容を外に行って話すなどと言っても話しますし、どうせ皆さん方は帰りにプレスに捕まって、「どんなお話がされました？」と聞かれる人がいると思います。取材拒否しなくていいです。何があったのか。周りの人に聞かれたらば、「こんな話が出ました」ということは正直にお伝えください。先ほど（お話しした、私たちは誰のためにここにいるのかということの）2番目と3番目の（人の）ため。神恵内に心を寄せてくれる人もいるんでしょうし、神恵内の将来の世代のためにもお伝えいただくことは大歓迎です。ただその時に、誰が何を言ったのか、という話をつけてしまうと、「あいつが言ったのか」って、「佐野か、そんなこと言ってたのは」となるよね。そういう話がないように、人の名前を付けてお話しするのをお避け下さい、というお願いをしております。これ僕たちファシリテーターも同じね。みんなそういう約束で来ています。こういう進め方、さっきの対話の場のルールですけども、これは皆さん方で決めた約束事なので、決定事項ではないです。「もっとルールを厳しくしろ」とか、「こんないらない」とかというのがあれば変えることができますが、今のところ、このかたちで大丈夫でしょうか？ご異存のある方がいれば遠慮なくおっしゃってください。

（2）前回の振り返り、運営委員会からの報告

○ファシリテーター

それでは次に行きましょう。よろしくお願ひします。では前回の振り返りに入りましょう。前回いろんなお話がありました。前回の内容です。前回どんなお話しをしたかということ、一つは運営委員会、運営委員を選出して3人の方を運営委員として選んでいただきました。それと会則についてのお話し合いと、お気持ちに関する話し合いと、公開方法についての問いかけというのをして前回終わったと思います。その中で、運営委員会というのが立ちあがって、いつやったんでしたっけ、運営委員会。

○NUMO

7月26日に開催しました。

○ファシリテーター

7月26日、運営委員の方は全員参加して下さったんですか？

○NUMO

3名、参加いただきました。

○ファシリテーター

3名の方を運営委員として選出させていただいて、3名ともご参加いただいて7月26日？

○NUMO

はい、月曜日に。

○ファシリテーター

自分で出といて忘れるなんて。26日月曜日に3名の方が参加して、そこは誰と誰と誰がいたの？

○NUMO

〇〇さん、〇〇さん、〇〇さん、NUMO とファシリテーターの大浦さんと佐野さん。

○ファシリテーター

佐野さん、リモートで参加してましたけど、というメンバーでやりました、ということです。その場に、前回の対話の場が出た議論のうち一部がペンディングになってちょっと話し合っただけで原案作ってくださいね、とお願いしていたと思います。どんなお話が出てきたのかということについて、運営委員会の事務局として参加してたのね？

○NUMO

はい。

○ファシリテーター

NUMO がね。事務局として NUMO のほうからご説明いただけますかね。

○NUMO

まず会則の修正につきまして、〇〇委員から会則のご意見をいただいておりますけれども、運営委員会では会則の修正については、対話の場が始まったばかりでありまして、現段階では現行会則で支障は生じていませんので、今後、対話の場が進んでいくなかで不都合が生じた際には修正すればいいのではないかとということになりました。会則は変更できないものではないので、今後状況の変化や委員の皆さまからのニーズに即して修正していく場面はあるのではないかと。その際に、〇〇委員からいただいた提案も参考にさせていただこうということになりました。例

えば、「運営委員を5名にしたらいいのではないか」というご提案もあったんですけども、今後、対話の場の委員が例えば増えた場合とか、運営委員を増員したほうがいいのではないかというご意見もありましたので、今回、〇〇委員の会則の修正案は反映しませんけども、今後の状況を踏まえて、あと様々のご意見も反映しながら会則は修正していきたいということで、運営委員会でまとまったということです。

○ファシリテーター

まず、〇〇さんからこの対話の場に会則の修正案が提出されました。その扱いについて運営委員会で今みたいな議論が出ました、ということです。運営委員の方、今の説明で過不足とかあって「俺たちの言ったことと違うよ」というのがあれば補足してほしいんですけども。大丈夫ですかね？大丈夫だそうです。ということで、運営委員会としては、とりあえず今は要点を言うと。

○NUMO

とりあえず現段階では現行会則では支障は生じていません、と。

○ファシリテーター

特に今の会則は変更する必要がないでしょう、ということと、ただ将来的には変えるかもしれない。

○NUMO

そうですね。

○ファシリテーター

将来的には変えるかもしれない。これ最初からそういうふうに言ってましたね。将来的には変えるかもしれないので、その変える時に〇〇さんの案の中でも大事なものがあれば、その時に捨てることもできるでしょうね、ということが議論になったという方向だと思います。この点について皆さん、いかがでしょうか？ご異存ないでしょうか？

○ファシリテーター

「ない」ということでよろしいでしょうか？

○ファシリテーター

特にご異存ないということで、現行の会則で行くということで進めさせていただきたいと思います。いいでしょうか？

○ファシリテーター

ありがとうございます。では、次に行きましょう。

○NUMO

次に、第2回の対話の場の際して〇〇委員から頂いたご質問事項の関係で、この内容を対話の場に提出したいということで事務局から提案して議論いただいたんですけども。

○ファシリテーター

手元に資料があるんですね。

○NUMO

資料をお配りしております。「第2回、質問事項（〇〇）」への回答」という表紙があるかと思うんですけども。

○ファシリテーター

資料の後半、真ん中すぎくらいですかね。「第2回、質問事項（〇〇）」への回答」ということで、皆さん、見つけられましたでしょうか？

○NUMO

前対話の場において、この技術的な部分については紙で出しましょうということでまとめておりましたが、会則の部分も含めて今回ご回答として資料として配付しています。ご質問のうちの技術的な部分については、本来であれば委員の皆さまに分かりやすくご説明すべきところだと認識しています。しかしながら、専門性が高いご質問が多く、皆さまへのご説明には相当な時間を要するのではないかということで、ファシリテーターの方とご相談させていただいて、今後の対話の場で、ガラス固化体の特性であるとか、放射線の人体への影響とか、処分場の安全設計とか、そういった点を今後テーマごとに情報提供をこの対話の場でしていくことになるかと考えています。その際に、〇〇さんからのご質問への回答内容とか趣旨とかそういったところを、皆さまにご説明するというにしていきたいということになりました。それと、会則の部分のご質問については、一旦、会則は対話の場で決まったものでありまして、事務局から答えるというのは僭越ではありますが、準備事務局として当時、会則を作成した際の考え方を記載させていただいております。内容を全て説明するとすごい時間がかかりますので、後ほどご覧いただければと思っています。以上です。

○ファシリテーター

ということです。今の説明、大丈夫ですかね。これについて質問とかご意見とかありますか？

○ファシリテーター

大丈夫でしょうか。ちょっと補足しますと、〇〇さん、昨日伺った話をしているんです？昨日、僕と佐野さんとで〇〇さんの所に伺って、〇〇さんのこの質問書の中の趣旨をもうちょっと僕たちなりに伺いました。どういうことをおっしゃりたかったのか、どういう質問の内容だったのか

ということをいくつかお話をして、ここに書いてあること実は〇〇さんの方で承得たわけじゃないんだけども、こういうことをおっしゃりたいんじゃないですか、ということでいくつか挙げてきています。この中で例えば、「活断層の危険性についてちゃんと皆さんに伝わっていないでしょ、このことについてきちんと伝えるという努力がもっと必要なんじゃないでしょうか」とか、あるいは「そもそも活断層の安全基準の決め方って今の決め方でいいんでしょうか」といったような、いくつか非常に大事な問いかけがこの中に含まれているんですね。この中に含まれている大事な問いかけは〇〇さん個人の問題じゃなくて、たぶんこの対話の場にとってはとても大事な問いかけがいくつかあるので書きだして、(模造紙に貼っていますが、) 青いシートは書いてある通り、いつか扱う内容として扱って、その時が来た時に扱わせていただこうと思っております。とても大事です。今ここで一つひとつ説明すると、またそれだけですごい時間がかかるので説明、僕はしませんけども、ここでとても大事な言葉があるので、そういう場面で使わせていただこうということは今説明していただいたかなということなんです。いいですかね。

○ファシリテーター

大丈夫でしょうか、皆さん。

○ファシリテーター

次に進んでいいでしょうか。では次お願いします。

○NUMO

続いて前回、村民は傍聴してもいいのではないかとということで、傍聴の仕方について検討しました。資料は「傍聴の方法について(案)」ということでお配りしております。A4・1枚縦の資料になります。よろしいでしょうか。

それでは、傍聴については運営委員会での議論の結果を本日皆さまにお諮りしたうえで、よろしければ配付資料の案で第4回から実施したいと考えています。資料をご覧くださいと、傍聴の方法と人数ということで、コロナ禍であることも踏まえて、あまりいっぱいはいれられないかなということで、当面10名程度をこの席の後ろのほうに席を並べて傍聴していただきたいと考えています。傍聴の資格、村民ではということでしたので、申し込みの時点で神恵内村に住民登録されている方ということにしたいと考えています。対象としては、高校生以上の方であれば傍聴可能かなということ。あと周知の方法としましては、事務局が対話の場を開催する際に、「何日に開催します」ということを周知しておりますけども、その際に傍聴についても周知して傍聴を希望するという用紙も入れてお配りしたいと考えています。提出先は、事務局であるNUMO神恵内交流センターに持参するか、FAXをしていただく。申し込みは先着順にしたいと思っています。締め切りは、対話の場の二日前までということにしたいと思っております。傍聴の方法ですけども、発言権はなしで、対話の場の運営に支障が出るような行動をした場合は退席していただくということと、基本的に席からは動くことはできないということで、今回のようにテーブルごとにワークをする際に、そばまで来て聞くとか、そういうことはできませんということになります。

あとは、録音録画は禁止ということと、最後は先ほど委員の皆さんにお願いしたのと同じで、対話の場の内容を話す際は、個人が特定されないようにお願いします、ということにしたいと思っています。これでよろしければ第4回から募集したいと思っています。

○ファシリテーター

これは決定？

○NUMO

今回ご了解いただければ第4回からやりますけど、違うやり方がいいという意見があれば、また変えていきますけど。

○ファシリテーター

了解です。とりあえず一旦こういう方法でやってみて、支障があるようであればもうちょっと厳しくするかもしれないし、支障がないようであれば、もうちょっと緩くするかもしれないし、というところで一旦このかたちでやらせていただいけませんか、という案ですね。

○NUMO

そうです、ご提案です。

○ファシリテーター

どうでしょう？ご意見ありますか？いいですか？特にないですか？

○ファシリテーター

では、このやり方でやらせていただきますので、このやり方でとりあえず一旦やって、次回から傍聴が入る可能性があるんですかね。

○NUMO

そうですね。

○ファシリテーター

次回から後ろに最大限10人ですけども、いらっしゃれば傍聴が入る可能性があります、ということ。以上です。

○NUMO

運営委員会の検討結果は以上です。

○ファシリテーター

運営委員会の結果は以上です。運営委員の方、忙しい中、運営委員会に参加してくださいまして、ありがとうございます。参加して下さった運営委員の方に拍手だけしましょうか。どうもありがとうございました。

拍手をしておいて次も運営委員会があるので、よろしく願いいたします。次の運営委員会は次の運営委員会で、結構大変な委員会の予定、プログラム決めなきゃならないので結構大変です。ではもう一度、文献調査の進捗状況。NUMO さんからのたつての願いがあつて、今日はこのあと文献調査の進捗状況について中間報告をさせてくれ、ということなので、します。僕、実は他の議題を予定してたので、あまり無理にここに正直言って入れたくないみたいな気持ちもなかったわけじゃないですけども、たつてのご依頼です。たつてのご依頼の中身を教えてください。

(3) 文献調査の進捗状況について

○NUMO

ありがとうございます。文献調査の進捗状況については、これまで住民の方々やマスコミの方々からも問い合わせがあつたということと、あと前回の対話の場においても付箋に「文献調査を本当にやってるのか」というようなご意見もありましたので、第3回の対話の場で説明できないかということで、NUMOから運営委員会に提案させていただきました。運営委員会で検討した結果、文献調査は村民の皆さまの関心も高いということで、概要を説明してもらおうということになっています。ただし、文献調査の内容というのは短時間で説明できるもの、ご理解いただけるというふうには考えておりませんので、今回、概要を説明させていただいて、次回以降で詳細に、丁寧に説明するということではどうかということになっています。委員の皆さまに同意いただければ今回、文献調査の進捗状況について説明させていただきたいと考えています。

○ファシリテーター

どうもありがとうございます。皆さん方の中でも「本当に文献調査やってるの？」とか「何やってるの？」という話がありますよね。結構時間が経ちました。手を挙げてから10ヶ月経っているので、「一体何やってんだよ」って気持ちとしてあると思うんです。ただこの話をすると、すごく知識のある人はちょっと話せば分かるんだけど、知識のない人たちにしてみると、そこだけ話されても良く分からなくて、たぶん消化不良起こすだろうなということで、僕も躊躇してます。あまり時間を取ってないんですけども、とりあえずちょっと説明していただくということで今考えています。

ただ、どうしても時間とって、この後の予定ってあるんですけど、それを捨てても文献調査の話、今日したいという人がいれば、というのが場の合意であればそっちをやりましてもいいですかね。文献調査の話は今、僕の想定では、第4回で扱おうと思っています。じっくり時間を取って。文献調査ってなんのためにやるのよ、どんなことやるのよ、というところ、全体像の中で、ここは話をするという話にしたいと思います。その代わりガッチリやるから。

これからやる文献調査の話を、ちょっと僕のほうで前ぶりだけしておきますね。核のゴミとよく言ってますけども、いま我々が扱おうとしている核のゴミというのは何かと言うと、核のゴミ

と言っても、福島原発で出てきているいろんなゴミもたくさんありますけど、その中で今扱おうとしているのは、原子力発電所で発電をした結果出てきた使わなくなった燃料、使用済みの燃料を、六ヶ所にある、海外でやってるのもありますけども、再処理して出来上がったものの最後の残ったもの、これを核のゴミと言っています。それと、もう一つ埋めるものがあるんでしょ？TRUとかっていう別のものもあるんですけども、今その話をすると長いので、それはまたちゃんと時間をとって話をしましょう。そういうものを埋めるという話をしています。全体でこのような計画になっていて、候補地がどこかとりあえず一旦手を挙げると、その後に調査が始まります。これ文献調査、概要調査、精密調査、調査が2年から20年ぐらいかかると言っています。その後に、処分地がなんとか決まったとして、その処分地で穴掘って埋めてというのに100年かかると言っています。100年かかって埋めて、その埋めた後にそばに近づいてもなんでもないですよ、という状態になるまで10万年かかるとかっていう、非常に気の長い、一つひとつのタームがずいぶん長い。この調査が終わるだけで、調査が終わる20年だけで、僕も本当にその時生きているのかというくらい時間がかかる。というところの話の、一番最初の調査のところの、この調査も今言ったように文献調査と概要調査と精密調査の3種類の調査があって、この一番最初の文献調査が始まって約10ヶ月経った、この状況についてNUMOさんからご説明をいただきたいとお願いいたします。

○NUMO

NUMO 技術部の兵藤と申します。お時間いただきまして、ありがとうございます。それでは文献調査の進捗状況について、短時間ですので、かいつまみながら説明させていただきます。

大きく2つ、最初、文献調査はどういったものかと、それから今進捗はどれくらいかというお話をさせていただきます。後半のほうで、集めている文献がどういったものかというのを説明させていただきます。まず、先ほど大浦さんのほうから段階的にというお話がございましたけども、このように段階的に調査を行って、適した場所を選んでいきます。もちろん調査ですので、放射性廃棄物は一切持ち込みません。各段階の調査完了後には報告書にまとめまして、公表いたします。仮に、次に進む場合には、市町村長、それから知事さんのご意見を聞いて、これに反して先へ進むことはありません。それから、左下のほうに、火山とか書いてあるんですが、次の段階に進むには要件というのが法律に書いてあります。左下はこの3段階をまとめたような表現でして、大雑把に言いますと、最初のほうで火山とか活断層を避けて、後半のほうでは現地で調査をします。岩盤とか地下水が適した所を選んでいくと、そういった要件の構成になっています。文献調査はここに書いてますように、普通地域を対象にした地質図ですとか論文、そういったものを調べていきます。ですが、科学的特性マップというのが数年前に出てまして、それとどう違うんだということをよく聞かれますので、ここにちょっと対比を示してありますが、科学的特性マップは、全国に地層処分に関する特性がどういうふうに分布しているかということを示すものですので、つくば市（茨城県）にありますような国の研究機関が地質について断層とか火山とか全国的にまとめた資料がございますので、そういったものを元にマップが作られてますが、文献調査はある特定の地域を対象にして調べるものですから、もともとそういうものですから、その地域を対象

にした地質図とか論文を調べていくということになります。机上調査ですので現地調査を行いませんので、机上での調査になります。最近、パソコンそれからインターネット上に地質図等がありますので、そちらでの作業ができてきます。

文献調査の流れです。開始しました時に、文献調査計画書というのを示させていただきました。その中に「進め方」というページがございます。大きく4つ流れがございます、1番で開始して、2番で文献・データを収集して、3番で収集した文献・データに基づく評価をして、4番で最後に報告書にまとめて、皆さんにご説明、公告縦覧といったような流れで進んでいきます。現在はこの2番の「文献・データの収集」です。もう少し詳しく言いますと、収集して、評価に必要な情報を抽出して整理をしていくという作業になります。これは、一気にバツと集めて、抽出して整理してということではなくて、ここにありますように、まず国の研究機関ですとか学会が出しています地質図とかまとまった図面ですね、主だったものを集めて、一つひとつ情報を抽出して、例えば断層でしたら、同じ断層に関する情報を集めて整理するといったことをやります。整理すると、ここがちょっと断層の特性で抜けてるかなとかということ把握して、もう少し今度は幅を広げて研究論文等を調べていくということで、現在は主だった地質図等については、集めて抽出・整理が大体終わったところで、これからもう少し幅を広げていくというようなところ。こういったことをやりますので、外から見ますと時間がかかっているというようなところはあるかと思えます。現在、すでに集めている主なものです。まだこれ以上あります。左側に火山とか断層とか隆起・侵食とか項目がありまして、それごとに細かい字が並んでますけども、主だったものを並べております。上の白抜きのほうが、科学的特性マップで使われています全国規模でまとめられた文献・データです。マップでは基本的に位置の情報ですけども、文献調査ではそれに加えて、火山の特性とか断層の特性とか調べますので、そういった情報を持ってきます。黄色のほうは文献調査で新たに集めたもので、下のほうですと、地質図、古平とか幌武意とか地域の名前が出てきます。こういった地域特有のものを集めていきます。

ここまでが前半でございます、ではどういったものを集めているかというものです。大きく分けて、先ほど言いました主だった図面類。それから論文類があります。最初に図面類ですけども、まずは地質図。地質図というのは、表層の土壌はちょっとはぎ取って、その下にどういふ岩盤、どういふ地層が分布しているかというのを表したものです。こちらは、この黒線で書いてあるのが神恵内村の境界になります。最初はなかなか慣れないんですけども、色の違いでこういった地層が分布しているというのが示してあります。現物とは言いますと、これくらい、20万分の1の大きさがこれくらいです。これで積丹半島から寿都町のほうまで入るような大きさ。大体地質図というのはこれくらいの大きさというふうにイメージしていただければと思います。これには左下のほうに表がありますけれども、これは具体的に地質がどういふふうに重なっているかとか、どういふ年代にできたのかというのを整理したものが書いてありますので、こういったものを基本情報として整理をして、断層とか火山の評価につなげていくということになります。他には、火山関係です。こちらはつくば市（茨城県）にある国の研究機関のデータベースですけども、神恵内村ですとC06という積丹岳がありまして、周りに他の羊蹄山とかニセコといったものがあります。いつ頃活動したというようなことが書いてありますし、これを扱った論文がリ

スト化されていますので、後で論文を調べることになります。それから、これは鉱物資源に関するものです。これも、つくば市（茨城県）にある国の研究機関が出しているものですが、神恵内村ですとPy 硫化鉄というもの、それから隣になりますけども、Pb 鉛、Zn 亜鉛、Ag 銀といったものが記されております。こういった主だったものを既に大体集めて整理しておりますが、これを少し拡大していくと、個々の研究論文を調べるんですが、先ほどの地質図等に参考文献として載ってるものはもちろん調べますが、もう一つのやり方として、論文がデータベース化されておりますので、もちろんキーワードで検索することもできますが、こちらは、範囲を決めてやると、ここの部分を対象とした論文がパッと出るようなデータがあります。この青で囲っている所が右側に出ている論文が対象としている範囲です。こういうものを調べて、論文を一個一個入手して中身を調べていくということになります。これが今やっているような状況です。これが終わりますと整理した情報を基に、法律で定めた要件に従って評価をしていくということになります。少し長くなりましたが、ありがとうございました。

○ファシリテーター

どうもありがとうございました。質問と言ってもちょっと難しいかな。どうですかね？分かった？一つ二つ受けようと思います。

○委員

調査のスケジュールなんですけども、いつを目途に今やっているのかということが一つ。それから、最後は報告書を取りまとめて公告縦覧するという事なんですけども、おそらく我々が見て分かるようなものではないのかなと。かなり膨大な資料にもなるでしょうし。これについては、最終的に取りまとめたものに基づいて、次の調査に進めるのかどうかということになるんだと思うんですけども、それが第三者と言いますか、NUMO さんではなくて第三者的な機関が審査をして「この報告書で大丈夫ですよ」というふうになるのかどうか。そのへんのところをお聞きしたいなと思います。

○NUMO

いつ頃ということ、最初のご質問ですけども、いま最後のほうで、ここで示しています、収集が大体終わってきて、この後に評価。評価自体はこれから入っていきます。それから、報告書を作っていきますので、目安としては2年というふうに申し上げていますが、ただ調査ですので、やって行く途中でこれ新たに収集しなきゃいけないとか、また別途評価しなきゃいけないということも出てきますので、目安としては先ほどの期間を申し上げますけど、それは延びる可能性も出てきます。申し訳ありませんけど、そういうところなんです。それから評価につきましては、ここの下、先ほど公告縦覧というのがございましたけども、法律及び規則にプロセスが書いてありまして、説明会それから公告縦覧をさせていただいて、ご意見をいただいて、それを踏まえたうえで報告書をもう1回整理して経済産業大臣に出すということです。経済産業大臣は、村長さん、それから知事さんの意見を聞くということになってますので、そこはこれからどうなる

か分かりませんが、例えば発電所の例ですと、知事さんが専門家の人に意見を聞くというようなことは例としてはあります。これはこれからどうなるか分かりませんが、そういったプロセスというのは法律的には決まっています。NUMOとしては、もちろん必要に応じて専門家のご意見も取り入れながら、まとめていきたいと思っております。

○ファシリテーター

今の回答、ちょっと一つ確認なんですけども、〇〇さんがお伺いになった2つ目の点で、第三者みたいなかたちで専門家の会議みたいなのを通って、その結果として出されるものなのか、それともそういうプロセスが組み込まれていないのかということについてお伺いになった。それに対する答えはどっちなんですか？今現在はどうなの？

○NUMO

今現在はNUMOはあくまでまとめて、ご意見を聞いたうえで。

○ファシリテーター

今現在はどうなってます？今現在のルールとして、そういうプロセスが組み込まれているのか、YESかNOで。

○NUMO

今は、そこは組み込まれていません。明示してありません。

○ファシリテーター

心配なくていいから、ちゃんと次フォローしてあげるから。今現在のかたちとしては、そのかたちは法律上の中には組み込まれていないという答えになっています。二段構えで答えてましたね。その上にもう1枚層があって、ただし、市町村だとか知事だとかが「なにか他のプロセスでこういう評価の仕方もしてくれよ」というのであれば、そのことについては考慮する可能性があるということです、ということですかね？

○NUMO

はい。

○ファシリテーター

だからその中で、例えば他の人たちが、知事さんだとか村長さんだとかが「やっぱり第三者の評価が必要なんだ」とかいう意見が出てくれば、それはそれとして考慮する可能性がある項目としては担保されている。ごめんね。明確じゃない答えはこうやって突っ込んで、きちんとちゃんと答えてもらわないとね。真剣に答えてもらうということで、今の話でクリアになりました？答えになったですかね？いいですか。やっていたらきりがないので、今みたいなやり取りをずっと

やるというのは次回もう少し細かくやっていこうと思います。一番大事なところは今日聞かれたような、今聞いてくれたような気がする。とても大事な話が。いいでしょうかね。では次回もうちょっとじっくり。彼らも本当はもっと時間を取って文献ってどんなもんだというのを多分用意して、皆さんに見せてあげるくらいのことをしてほしいと思うんですけども、次もうちょっと時間取ればと思います。

(4) お気持ちに関する問いかけの振り返り

○ファシリテーター

では、前回のお気持ちに関する問いかけの振り返りをしましょう。前回第2回目の時に、皆さん方が、さっきも10カ月経ちました、ちょうど昨日誰かと話してたんですけども、ちょうど寿都で手を挙げたのがお盆明けぐらいでしたね。なんかみんなびっくりしてるところに、そのあと神恵内が手を挙げた。もっとびっくりしたというので、それが10ヶ月ぐらい前。ずいぶん時間が経ちました。初めて聞いた時皆さんいろんな思いがあって「びっくりした」だとか、「不安だ」とか、あるいは最初から「いやそれぐらいだったら、村がなんとかなるかもしれない」と思った人もいるかもしれない。いろんな気持ちがあったでしょう。それが時間が経つにつれて、だんだん気持ちも変わってきたかもしれませんし、強くなった気持ちだとか、変わらない気持ちだとか、だんだん薄れてきた気持ちもあるかもしれません。あるいは、新たに沸き起こったり、よその人から聞いて気持ちが変わったり、いろんなことがあったと。そういう気持ちを皆さん方から伺いました。どんな気持ちがあったのかというのは、前回のものそのまま貼りだしています。神恵内のその周りでは、寿都はどうなるんだとか、周りのマチがどういうふうな、どんな動きにあるんだとか、あるいは不安な気持ちとしては、安全に関しての不安の気持ちがたくさん出てきました。科学的な課題、処分場ができた時にどうやって安全評価をするんだとか、長い期間、安全に保管していく方法ってどんな方法を考えてるんだらうか、という心配もありました。お金に関しては、今日の新聞でしたっけ？今日の新聞に出てたんだっけ。補助金をどういうふうに使いたいな話が出てきたんですけども、あれは本当に貰えるのとか、どういうふうに使うんだとか、あるいは、お金が入ってきたらきっと地方が活性化するかもしれない、みたいな声もあったと思います。そんなに私は不安はないよ、という方もいらっしやいました。今まで随分いろんな勉強させていただいて、その中で知識も一定のものがあるから、そんなに不安はないという方もいらっしやいます。誘致のプロセスの透明性はこれで良かったのかというお話もありましたし、対話の場そのものとしては、この会として私たちこの場で発言することにどれだけの責任があるんだらうかというプレッシャーもあるよねとかといった意見もあります。あとはとても大事なお話、次世代の子どもたちに向けて私たちは説明責任があるんじゃないかだとか、子どもたちに恥ずかしくない今議論していくべきだとか、私たちが後世に送って行くことの倫理的な妥当性はどこにあるんだらうかみたいな。非常に哲学的ですけど大事な質問、気持ちもあったと思います。これが前回、皆さま方に出していただいた気持ちです。

なぜ気持ちの話をしたかという、私たちはこれから対話の場をこの先続けて行かなきゃならないんですけども、何のたまた対話をしていくのか、どんな対話をしていくのかという時の原点

がここです。最初に僕たちが出した、僕たちは今日誰のためにいますかというのが僕たちの原点であるとしたら、皆さん方の気持ちの原点はここ。今感じて不安だとか不信だとかといったものをどうやって解消していくか。あるいは少しでも緩くしていくのかということをやっていくその取り組みが、これからの対話の場だと思っています。

(5) 今日の問いかけ

○ファシリテーター

これから対話の場のプログラムを私たちが考えていかなきゃならないんですが、その対話の場のプログラムと一緒に考えていくという作業をこれから皆さん方と一緒にさせていただきたいと思っています。さっきから一生懸命喋って全然 PowerPoint が出てないということに気がつきました。一緒に考えていただければなと思っています。これから先、このような対話の場でどんなことをしたらいいでしょうか、どんなことが皆さん方したいでしょうか、というのが今日のこれからの中心の問いになります。例えば、これ〇〇さんがおっしゃってたものの中から僕たちが勝手に取り出したものですけども、「活断層の危なさがちゃんと伝わってないんじゃないか」という意見がありました。というのであれば、「活断層の評価ってどうやってやるの?」ということについてちゃんと勉強しましょうという会を作れば、そこで議論すればいいんですね。私たちの地域の、よそのことはどうでもいい。とにかく神恵内にある活断層ってどんな活断層があって、どんな危険があって、どうやって評価していて、さっきの話もありましたね、それを誰がどうやって評価してるんだ、みたいな話をきちんとしていけばいいんじゃないかというふうに考えています。そういうふうに、こういう一つひとつの言葉が、これに対してアプローチはどんなアプローチがあるんだろうかということを考えていくという、一つのヒントになればなということでこれを出しました。皆さん方でこれから、こういう気持ちを解消するためにどんなことをしたらいいでしょうか、どんなことをしたいですか、ということについてお話をします。グループワークでお話をして、この後ちょっと休憩を入れますが、休憩の後にグループで話をさせていただきます。グループワークなので、その時はカメラが出て、マスコミが出て、ネット中継は映像だけ流れるんだけど音声は落ちるんだね。映像は流れるけど音声は落ちますという状況になります。しゃべってもどこにも出ていかないからゆっくり話して。言葉はうまくまとめられなくてもいいですし、なんか漠然としたものでも構わないので、ファシリテーターがいるので、彼らがお手伝いをします。

ただ非公開になる前に、公開してカメラがオンマイクの状態、自分の意見を皆さんの前で、先ほどの問いかけの話ですよ、何でも言えばいいという話でもないので、先ほどの問いかけのお話、これからどんなお話をしたいですか、どんな話し合いをすればいいですか、ということについて、意見を申し述べたいという方がいらっしゃればお一人かお二人、この場でお伺いする時間を取ろうと思いますがいかがですか?他にいらっしゃいませんか?どなたか。いいですか?全然無理する必要はないです。特にいらっしゃいませんか?いらっしゃらなければこれでいいと思います。この状態で今から7時30分まで10分間休憩を取ります。休憩を取った後にまた再開しましょう。これをもって一旦 Web 中継のマイクがオフになって、プレスの方には一旦出ていただき

ます。どうもありがとうございました。ご休憩ください。

(6) グループワーク (映像のみ公開)

(7) グループワークにおける状況説明

○ファシリテーター

こっちを向いてください、お願いします。ちょっと一回ブレイクしてください。でも本当はこれぐらいみんなで話をしてるのが止まらない感じが好きです。止まらないぐらいの感じが好きです。いいでしょうか。定刻になりました、というか大体予定してる時間になりました。皆さん方のテーブルの中で思ったより議論が進んで、いろんなお話が聞けたようです。ここから共有に入りたいと思います。大丈夫か。止まらないし。大丈夫かな。全然止まらない。では共有をしようと思います。どこのテーブルからやる？近い所からやろうか？櫻木さんの所オッケー？じゃあ櫻木さんの所やりましょう。だから櫻木さんのホワイトボード一緒に前に持ってきてあげてください。櫻木さん、オンマイクじゃないと無理なのでマイクで。

それでは皆さん聞いてあげてください。櫻木さんの所の、このチームの討議の内容をお願いします。

○テーブルファシリテーター

櫻木です。皆さん、よろしくをお願いします。そこのチームなんですけど、最後ギリギリまで話しをして、まとめて私が何を発表するのかというところの許可を得てないので間違ったことを言ったら突っ込んでください。お願いします。とりあえず説明します。(討議で出たお話を模造紙に張り出していますが、) 大体大きく分けて、ここ、ここ、ここ、ここの4つぐらいに内容が分かれています。一つ目は、村の方の興味関心とか疑問とか不安というのを良く調べて、それに合わせた説明をするような場をつくってほしいと。それは小規模、町内会とか、もしかすると対象者1名であっても、そこに行って、その人の興味関心に沿った説明をするような場が欲しいな、という話が出てました。それと、子どもたちへの説明方法というのもちょっと考えて、話し合いとか配布物とかいろんな方法で、子どもたちにこの問題が分かりやすく説明するようなことをしてほしいなということで、それも子どもたちももっと小学校とか中学校、もしかすると低学年とか高学年とかというふうに細かいサイズに分けて説明していかなければ理解できないんじゃないかな、という話が出てました。それと、神恵内が悪者になっている。町の中の説明会はいいんですけども、この町の周辺、村の周辺の地域の方たちにもちゃんとした説明をしなきゃダメなんじゃないかなと。説明会であつたりとか配布物であつたりとか、イメージが悪くならないようにしようね、と。これは特に子どもたちが、ここがすごく心を病むところなので、子どもたちにもこのことをちゃんと説明していかなきゃいけないよね、という話が出ていました。それと、この事業は村にとってどんなメリットがあるの、という話が出ていて、これをちゃんと説明する場が欲しい。特に地域振興の情報が少なすぎる。地域振興、特にNUMOさんからも、この村であればこんな地域振興があれば可能性があるよ、みたいな情報も提供してほしいということが出ていま

した。特に地域振興に関しては、誰と話をするとこの話し合いができるのか、ということはテーブルの中でも出て、答えが出なかったところなので。これも、誰と話をすればいいのかというところも含めて対話の場で扱っていけばいいんじゃないかな、と話が出てました。それと、もうどストライクですね。地層処分の仕組み。これはなんぼ聞いても良く分からない。村からの配布物もまだ1回ぐらいしかきていなくて、その内容も難しかったので、もっと対象者が分かりやすいような説明資料を配布してほしいし、地層処分に関して噛み砕いて分かりやすく丁寧に説明するような場をどんどん作ってほしいというようなことが出てたのが、今の時間に付箋に書き留めた内容です。皆さん、こんなんでもよかったですでしょうか。大丈夫ですか？良かったです。ありがとうございました。

○ファシリテーター

どうもありがとうございました。杉田の所、行こうか。これテーブルに番号をつけよう。発表順にしよう。A、B、C、D、何を言ってるかとあれに書いとかなないと、どれがどれだか分からなくなっちゃう。では、お願いしますはい。

○テーブルファシリテーター

よろしくお願いします。B チームなんですね。なんかチーム名とか決めれば良かったですね。こちらのチームも、最後何を私が発表するというのを、皆さんの了解を得ないまま、ギリギリまで「他に足すことはないですか？」と問いかけをしてしまったので、すみません、補足があったらお願いします。こちらのチームでは、最初に書いていただいた付箋を基に、「どのようなテーマを、誰がいる場で、どんな場を作って、どんなかたちにするか」みたいな、そんな話をしていきましました。全体的には、やっぱり情報不足というか、知らないことがいっぱいあるので、そのテーマについて教えていただきながら、でも一方的に聞くだけではなくて、そこで質疑ができるだったりとか話し合いができるところが中心として多かったかなというふうに思います。まず、賛成派と反対派が議論してほしい。そういう場があったらいい。聞いても難しくて分からないかもしれないけども、でもそういう場で聞くということがまず大切だと思う、ということで、そういう時には分かりやすく資料を作ってほしい。もう1回言います。「分かりやすく資料を作ってほしい」。具体的に言うと、地質・地層・活断層に関する勉強ということで、例えば、活断層についても、「ここにある」という人もいれば、「ここにはないよ」という人もいるかもしれない。そういう双方の主張がちゃんと話しされて、それが分かりやすい資料を基に聞けて、そこに対して質問ができるみたいな場ですね。あと原発のこととか、処分場のこと。処分場については、まだ日本で誰もやってないからそもそも分からないし、というところがいっぱいあるので、そこについてもやっぱり同じように話が聞きたい。それから、あと例えば地震についてとかですね。あと、高レベル放射性廃棄物そのものに関して具体的な知識を知りたい。それがどのぐらい危険なのか、ガラス固化体に入るとどうなるのかなど、分かりやすく動画で説明があったらいい。特にどのぐらい危険なのかは、もう一回言います、「分かりやすく動画で説明とかがあったらいい」という話で

した。あとは、自分の子どもが被曝になったらどうしますか、という付箋が出ていて、そういう疑問とかを扱う場合は、どんな人がいて、どんな方たちとお話をしたいですか、という話をしたら、子どもがいる世代との話し合う場、それから被曝量について知識がないので知りたいよね、そこでは福島の実例について話せる人がいたり、ベラルーシについて教えてくれる人がいたり、そういう場があったらいいよね、という話でした。あと処分場、埋めた後のお話。埋めた後の管理はどうなるのか、埋めるために工事をして、その時出た土砂とかどうするのか、とりあえずNUMOに説明してもらおうということスタートでもいいので、その後話ができる場みたいのがあったらいいよね。あと遺伝子異常など起こる可能性があるみたいなことをしていいのかという疑問を基に、そういうことを話をする場、世代間倫理の話ができる場。そこでは放射線の専門家がいて、そのことについて専門的にお話をしてくれるようなそんな場があったらいいよね。最後になるんですが、どの場においても、こんな場だったらいいよね、というお話も出ました。それが一方的に聞くだけではなく質問がちゃんとできる場。たくさんの人に聞いてほしいんだけど、まずはやっぱり村民の方たちに聞いてほしい。フラクナ場で、フラットな関係が作れる場。そして、すごい大会場とかじゃなくて狭い空間で、そんな話が、例えば、有志が立ち上がってそういう場を作ったっていいよね。それと、ちゃんと聞いてくれる人がいる場。そういう場があったらいいね。あと昭和世代が次世代と話す場。昭和世代の古い世代が、自分たちが原発を許しちゃったからみたいなのをどうしても背負ってしまってる方々がたくさんいる。その方々が次世代に対してお話しする場があってもいいよね。あと、こういう公なというか対話の場以外の場があったらいいよね。作られたらいいね。そんな話が出ていました。まとまりなかったですが補足ありますか？大丈夫ですか？ありがとうございます。以上です。

○ファシリテーター

ありがとうございました。すみません、時間が押しています。5分ぐらいでお願いします。今なんの話をしているかという、問いかけとしては対話の場でどんなお話をしたいですか、どんな対話がしたいですか、というテーマについて皆さん方から意見出しをしてもらった結果について報告していただいております。ではCチームをお願いします。

○テーブルファシリテーター

Cチームの報告をさせていただきます。まず、気持ちとそこからどんなことをしたいかというアイデアと出てきたので、こちらで急いで整理したものなので、ちょっと分かりにくかったら、すいません。まず一番最初にすごく大切なお話を聞いたんですが、「この対話の場が始まってから村民が文献調査とか地層処分のことについて話す機会がなくなった」とおっしゃった方がいました。むしろ、根底に不信感があって、なんか議会と村長が勝手に決めたんじゃないとか、受け入れが始まった後に報告されたとか、そういう不信感があって、むしろ最近、文献調査とかについて何か話づらい空気になってきたよね、という。村の規模が小さいし、もちろん原発で働いてる村民もいるという中で、反対派の声が言いにくい空気がやっぱり作られてきちゃってるというところ。そういった話がありました。その中で、住民の不安とか不信感を解消するために、こ

の会で話し合ったようなことをもっと村民にフィードバックしていく、伝えていくような仕組みを作らなきゃいけないんじゃないか、というような意見が出ました。あとは、先ほど文献調査の進捗の報告というのが今日の場でもありましたけれども、それを定期的に報告をして、それをさらにこの対話の場だけじゃなくて村民全体に報告していく。文献調査が終わった時も、次に進む前に対話の場はもちろんなんですけど、それだけじゃなくて、村民全体で話し合えるような機会を作ってほしい、というような意見が出ました。そのまま話の流れの中で、例えば、交付金が20億とか1年間で10億と言われてますけど、昨日今日の報道にもあったように、全てがこの神恵内だけに入るわけではないみたいなこととかも、村にまるまるお金が入ってくるみたいな報道をされている、そういうところも違うんじゃないかとか、交付金を使うにしても、すごく手続きが面倒だと。もっと使いやすくなすべきじゃないかとか、そういったような意見も合わせて出てきていました。もう一つの流れとしては、ここもまた気持ちの話に戻るんですけど、原発の立地で、原発がある地域だから受け入れるべきかとか、そうじゃないかとかという話ではなくて、そもそも誰が電気を使ってるかという所から、この地層処分を考えなきゃいけないと。電気は都会のほうの人がもっとたくさん使ってるわけですし、全国民が関心を持たなければいけないはずなのに、手を挙げた地域だけが悪者になって反対とかというところも集まってきちゃってみたい。全国的に説明会をやっているというふうにNUMOさんとかエネ庁さんがおっしゃってるんだけど、全然効果ないんじゃないかというような意見が出ました。もっと国を挙げて取り組むべきだし、知事と市町村長と一緒に話し合わなければいけないと。今の仕組みのまま先に進めても、文献調査終わりました、でも道が反対したからなしですとかってなったら、何のために村とか町が二分されるような空気を作ってまでやって、先に進むのかどうか分からないような状態のままにしておくにすごく疑問があるというような厳しい意見がありました。本当は、村が二分するようなことになってはいけないのに、そういう空気にもなってしまうし、そこまでしてるのに、本当に先に進めるのかどうか国の本気が分からない。さらに、マスコミの報道も非常に偏ってしまっていて、もっと一緒に情報発信を、批判するところは批判してもいいけど、中立的な情報発信を国とか道とかマスメディアも一緒に取り組んでほしいというようなお話が出てきました。ちょっと時間が急いでいるということなので全て紹介しないですが、その中で、やっぱり電気を使っておいて処分反対だけというのは無責任だという声もあって、みんなで考えられるような仕組み。さらに地元だけで話し合うんじゃないかと、道や国も一緒に話し合う。国のエネルギー政策なんだから国がしっかり関わって、例えば、エネ庁さんとかも同じテーブルに入って話し合いたい、話し合っほしい。特に、国やエネ庁さんはどんな話をしてるのかみたいなことを知る機会もほしいというような、そういう会にしたいというような意見も出ました。以上です。

○ファシリテーター

補足ないですか？大丈夫ですか？どうもありがとうございました。チームDお願いします。いろんな意見が出てきて全部扱いきれるというか、全部説明しきれないでしょうけども、お願いします。

○テーブルファシリテーター

話しますけれども、何かサイン送ってくださいね。お願いします。もちろん皆さんと一緒に、「これからどのようなことをしていったらいいでしょうか？」という問いから始まったんですけども、一番最初に返ってきたのは、まず、科学技術に関してはちょっと分からない、という言葉から始まったかなと思います。難しい、やっぱり分からない、何を聞きたいのかも分からない。何をしたらいいのかも分からないんだ、という話があって、だから突っ込んだ質問とかもそもそもできない、難しいんですよ、という話がありました。なので、ある種その、ここは埋めていいのかどうかという判断とかは専門家にちょっとお願いするよ、そこはそこでいいんです、というような話もあったかなと思います。その中で、今後どうしていきたいのかというところで、4名の方の思いが一番やっぱり出てきたのは、この村をどうしていくのかというのを話したいんだというところで、かなりいろんな意見が出たかなと思います。人口が減っていくというお話もありました。「もう猶予が無いんです、私たちは」というような声もありました。実際にできるまで100年かかりますけど、「その100年に果たして神恵内はあるのだろうか？」というお話もありました。名前を残したいだとか、村もどう残っていくのかという話の中で、それも含めたくえで残すのか、または閉じていくのかにしても、この村をどうしていくのかというところを話していきたいし、その産業の一つとして今回の地層処分事業ですとか、そういうことがある。それも含めたくえで、私たちはどういう選択を取っていくのかということをお話していきたいというところで、結構大きく話があったかなと思います。あと、100年間の中でそもそも50年前だって私たちスマートフォンなんか考えられなかったわけだから、このまま進んでいく中でまた新しい技術も生まれるかもしれないから、そこは止めないでほしいな、という話もありました。あとは、このあたりなんですけども、隣に泊があって、避難訓練とか常に泊原発ありきで私たち過ごしてきました。その中である意味馴染みがあるみたいなのところもあるんですけど、そこで今ちょっと地層処分がなんか来たなという感じもあって、そういう責任みたいなものもやっぱり当然感じているし、恩恵というものも受けてきたなというのがある中で、どこか他の所で処分というより、私たちは隣で受けてきたという所で考えるところもあるんです、という話がありました。風評被害のところでも、なんか風評被害が出る、騒ぐ人のせいで風評被害だってお話ですとか、あと、ここにいるのは賛成の人も反対の人も中立の人もいるからという、だからそれぞれの人がいるということが大事だよなという話ですとか、ここね、「天の時 地の利 人の和」とおっしゃってくださった方がいらっしゃるんですけど、機械を動かすのも人間ですし、人間がしっかりしないと、というお話があったかなと思います。という感じですけども、どうですかね。大丈夫？ありがとうございます。

○ファシリテーター

ありがとうございます。さて、まとめなきやいけないんですけども、無理です。ただ、感想だけ申し上げさせていただくと、僕はずっと管理職なので、これが始まると大体管理職なんですね。ウロウロしてて、この場の中で皆さん方がものすごく熱量を持ってお話をされているという状況がとても嬉しかったです。それと今ここにたくさん出てきているお話を聞いている中で、い

かに僕たちに重たい責任があるのかということを感じました。皆さん方の今出してきた意見を受けて、これから場をどういうふうに作っていかなきゃならないのかということデザインしていくというのは、これだけ気持ちを持って人たちに応えていくのは、すごく重い責任だと思えますし、ファシリテーターとしてファシリテーター冥利に尽きるなと思って伺っておりました。

で、次に何をやるかを決めればいいのか？それだけでいいんだっけ？それ以外にすることある？大丈夫？公開の話ね。公開の話ですけども、公開の方法は、今回は前半部分の問いかけるところまで、次回はちょっと説明するくらいのところまで、そのへんまでを公開にして、最初にみんなの前で話をしたい人1人2人というところまでという感じになる、というのが今のやり方。あと最後のみんなの意見をまとめるというところを公開するという今のやり方をしています。やりにくいようであれば変えますけども、次回はそれとあと後ろにあれが入ってくるんだよ、村民の方が、傍聴が入ってきます。やりにくいようだったら変えますけど、今のままでいいですか？大丈夫ですか？意見何かありますか？いいです？次回も公開の仕方は同じですけども、後ろに傍聴の人が入るということになります。そういうかたちでいこうと思います。

次の第4回ですけども、たくさん出てきました。技術的な問題もありますし、そもそも地層処分って何だ、良く分からん、という意見がすごくたくさん出てきたので、それ以外にも地域振興って非常に重要な問題が出てきたんですけど、地域をどうしていけばいいのか。この2つがすごく重要なテーマだと思うんですけど、次は、とりあえず地域振興を少し重くて、いきなり地域振興をみんなでやりましょうといっても話し合いにならないので、次回は先ほど申し上げたように、皆さんよければ地層処分のお話をしましょう。地層処分の全体の話をしてもらって、調査段階、特に文献調査を中心にして、地層処分って何なのか、何をどうすることが地層処分と彼らは言ってるのか。それと、調査の段階の中で文献調査で一体何をやっていて、どんなものやってきて、どんなふうにしてこれから進んでいくのかということについて、じっくり話を聞くという会にしたいと思うんですけども、よろしいですかね？できれば各テーブルに、今このテーブルに今ファシリテーターが入ってますけども、このテーブルにNUMOの担当者に入ってもらいます。テーブルワークの時に、NUMOの担当者さんを直接捕まえて、あんたの説明、さっきお前の資料分かんないってたくさんあったけども、「お前の資料分かんない」、「ここはどうなんだ」、「俺はここが分からん」と言って、がっちり聞くという時間を作りたいと思います。いいですかね、そんな感じで。そういうかたちで次回はやります。4回目は地層処分の概要と文献調査についてというテーマでやりましょう。ということで、行こうと思います。今日いただいた内容について、ちょっと我々のほうでもう一度まとめて、当面何回か分のプログラム、こういうふうにやりましょうということの案を作ります。案を作って運営委員会にかけて、運営委員の皆さん方と相談しながら、こんなふうなやり方をしましょうという案を作ります。その案をまた第4回目の時に皆さんに見せて、こんな感じでやっていいでしょうかね、という進み方をしていこうと思います。勝手に我々で決めることはないのです、皆さん方で、やっぱりああがいいとか、こうがいいとか、いっぱい意見を言ってください。こんだけ意見をもらっていますけど、もっともっと意見を言ってください。いいでしょうか？終わっていいでしょうか？皆さん方、何かあと言い残したこと、どうしてもこれは言いたいというのはないですか？それでは今日長い時間ですけども、どうもあり

ありがとうございました。これをもって終わりたいと思います。お気をつけてお帰りください。

○NUMO

本日の会は以上となります。第4回の開催については、日程などまた委員の皆さまにご相談させていただきます。夜も遅いですので、皆さまお気をつけてお帰りいただきますよう、お願いいたします。本日はお疲れ様でした。ありがとうございました。